

株式会社アーレスティ

2016年3月期 第2四半期 決算説明資料



2015年11月26日

本資料および本説明会で述べられた内容には、現時点で入手可能な情報に基づいて当社が作成した将来の見通しが含まれておりますが、様々な要因により、実際の業績はこれらの見通しと異なる場合があります。

ご説明内容

- ◆ TOPICS
- ◆ 2016年3月期第2四半期決算概況
- ◆ 今期の見通し

TOPICS

■2014年

- 3月 東京証券取引所市場第1部銘柄に指定変更
公募増資を実施
- 4月 アーレスティメヒカーナ鑄造工場の増床工事着工
- 6月 広州アーレスティ フォルクスワーゲン グループへの量産納入開始
- 7月 アーレスティインディア工場拡張工事竣工
- 9月 広州アーレスティ隣接地での工場建設第2期工事竣工
アーレスティメヒカーナ鑄造工場の増床工事竣工
- 11月 アーレスティウイلمントン増築工事着工

■2015年

- 3月 アーレスティ栃木鑄造工場拡張工事着工
- 4月 アーレスティインディア 、ディーゼル2気筒シリンダーブロック(マルチス
ズキ共同開発品)の納入開始
- 6月 アーレスティウイلمントン増築工事竣工
- 10月 アーレスティ栃木鑄造工場拡張工事竣工

2016年3月期第2四半期決算概況



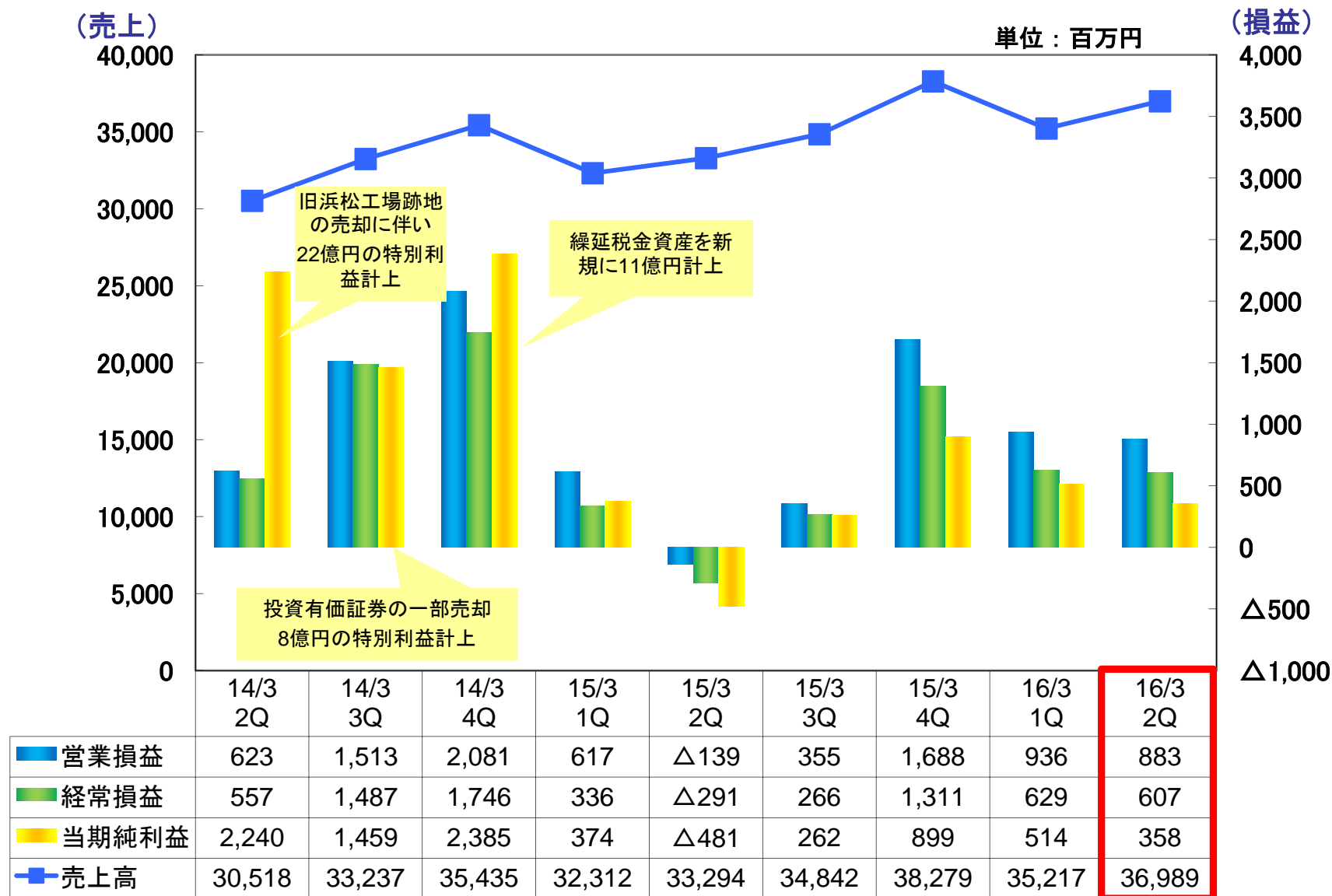
2016年3月期上期決算のポイント

(単位:百万円)

	2015年3月期 上期		2016年3月期 上期		増減	
売上高	65,606	100%	72,206	100%	6,600	10.1%
営業利益	478	0.7%	1,819	2.5%	1,341	280.4%
経常利益	45	0.1%	1,236	1.7%	1,191	—
四半期純利益	△107	△0.2%	872	1.2%	979	—
EPS	△4.18		33.77		37.95	

- ◆ 売上高:国内では消費増税、軽自動車税増税による販売減速の影響で受注は減少したが、地金市況の上昇により売上高は微増、北米はアメリカでの自動車販売の好況を受けた受注の増加と為替影響により売上高は増加、アジアは中国の景気減退による自動車販売の減少を受け受注が減少したが、インドでの受注の増加及び為替影響により売上高は増加。結果、連結売上高は722億円(前年同期比10.1%増)と増加した。
- ◆ 営業利益:国内は販売量減少影響及び減価償却費の増加等により減益、北米は主にアメリカ子会社が黒字化したことにより増益、アジアは中国での受注量減少の影響があったが、インドの損失が縮小したことにより増益。結果、営業利益は18億円となった。
- ◆ 経常利益:支払利息、為替差損の増加はあったものの、営業利益の改善により経常利益は12億円となった。
- ◆ 四半期純利益:経常利益の増加により8億円となった。

連結決算概要(四半期別)



ダイカスト事業

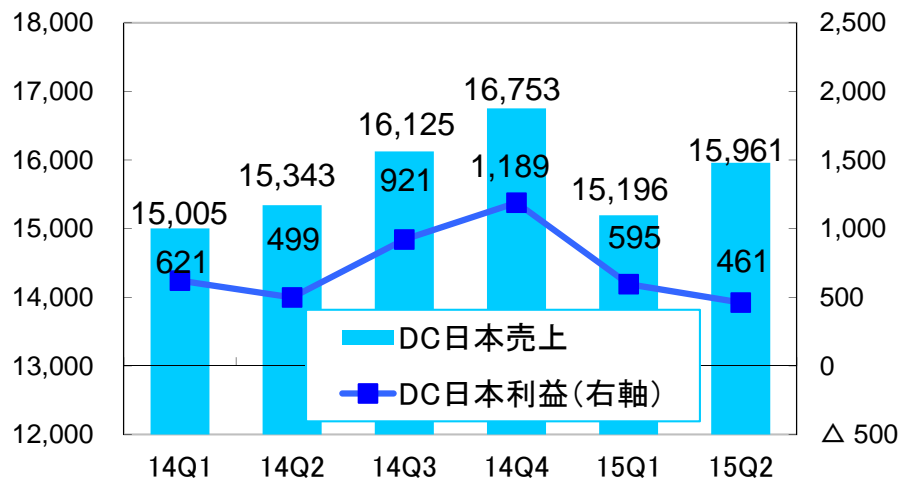
(単位 : 百万円)

		2015年3月期 上期	2016年3月期 上期	増減
日本	売上高	30,348 100%	31,157 100%	809 2.7%
	セグメント 損益	1,120 3.7%	1,056 3.4%	△64 △5.7%
北米	売上高	19,063 100%	23,776 100%	4,713 24.7%
	セグメント 損益	△608 △3.2%	470 2.0%	1,078 —
アジア	売上高	12,979 100%	13,618 100%	639 4.9%
	セグメント 損益	67 0.5%	106 0.8%	39 56.4%

ダイカストセグメントの海外売上高比率 2015/3期:51.9% ⇒ 2016/3期1Q:54.6% ⇒ 2016/3期上期:54.5%
 ※ セグメント別の増減要因については、次ページ以降で説明。

ダイカスト日本

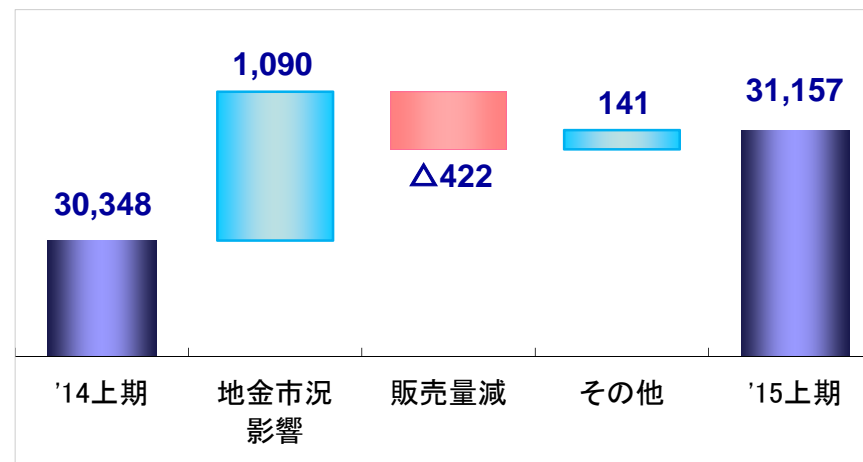
ダイカスト日本売上高／セグメント損益の推移 (百万円)



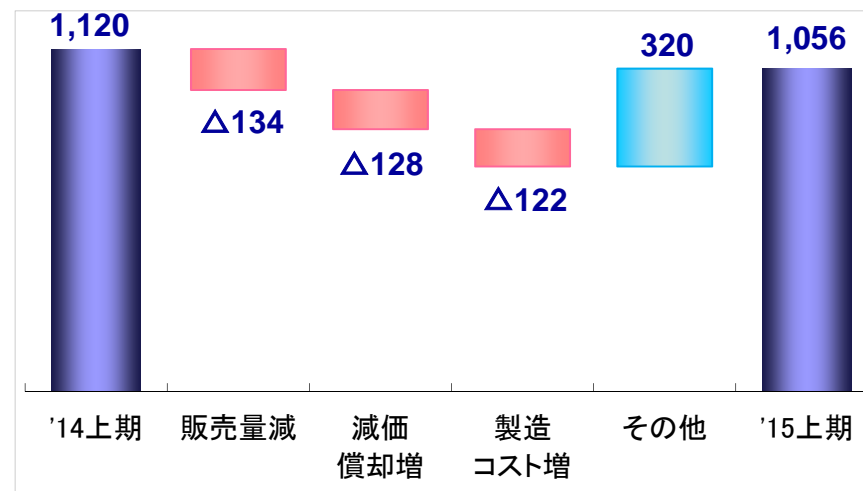
消費税増税の反動による販売減少と軽自動車税引き上げによる国内販売の減速が続く、一方で円安と原油安の影響を受け海外向けの輸出が好調なもの受注量は減少傾向にあるが、地金市況影響により売上高は前年同期を上回った。

セグメント利益は、販売量の減少、減価償却費の増加等の影響により前年同期比5.7%減となった。

売上高増減要因 (百万円)

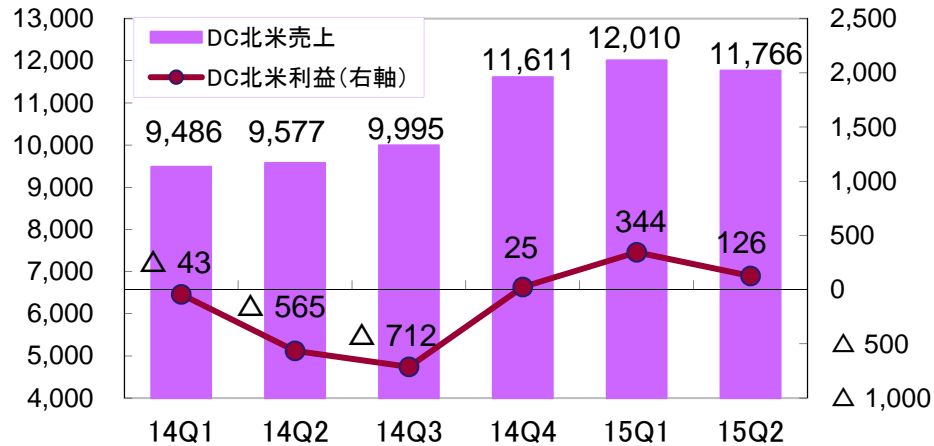


セグメント損益増減要因 (百万円)



ダイカスト北米

ダイカスト北米売上高／セグメント損益の推移 (百万円)



アメリカ: 好調な自動車販売から受注の増加に加え為替影響により売上高が増加。生産性の改善が進み、製造コストが減少し収益を確保。

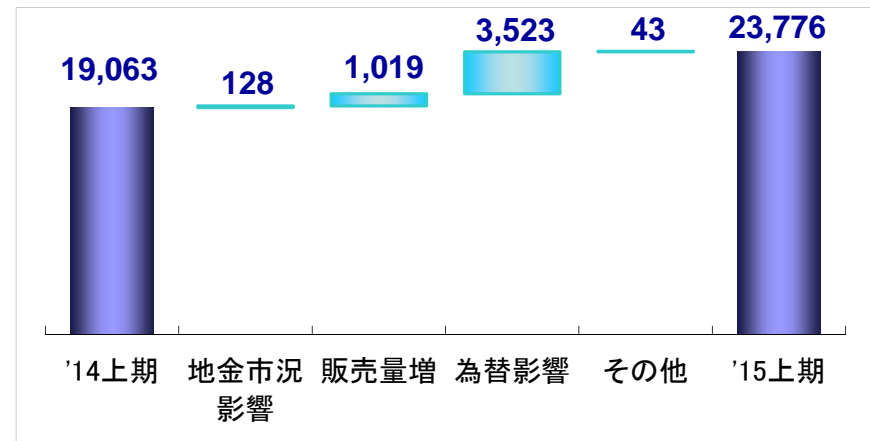
メキシコ: 受注の増加に加え為替影響も相まって売上高が増加。増収効果と生産性改善効果により増益。

アメリカの収益は回復傾向にあり、第2四半期まで黒字を継続しているが、以前の利益水準までは回復していない。今後も継続的に改善を図る。

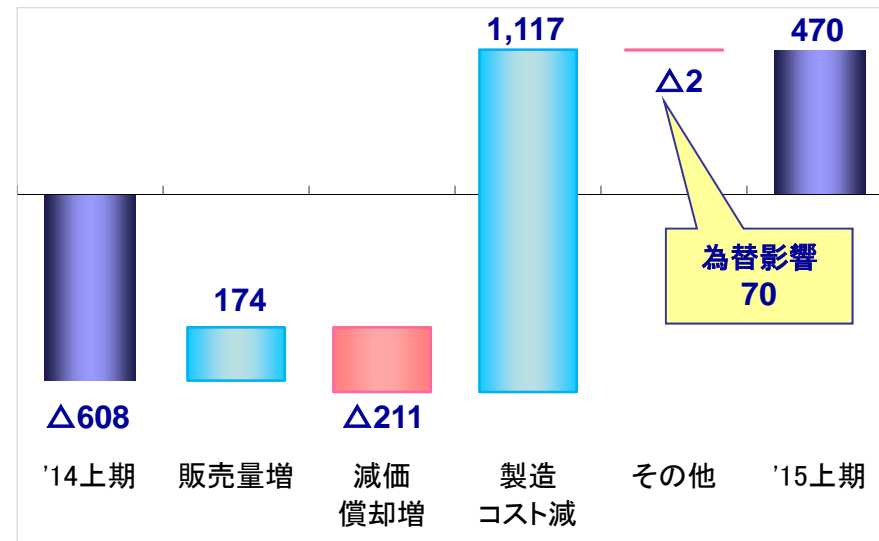
※アメリカ 4-3月
メキシコ 1-12月

平均レート(14上→15上)
米\$ 103.50→121.52
メシコ(米\$)102.66→120.50

売上高増減要因 (百万円)

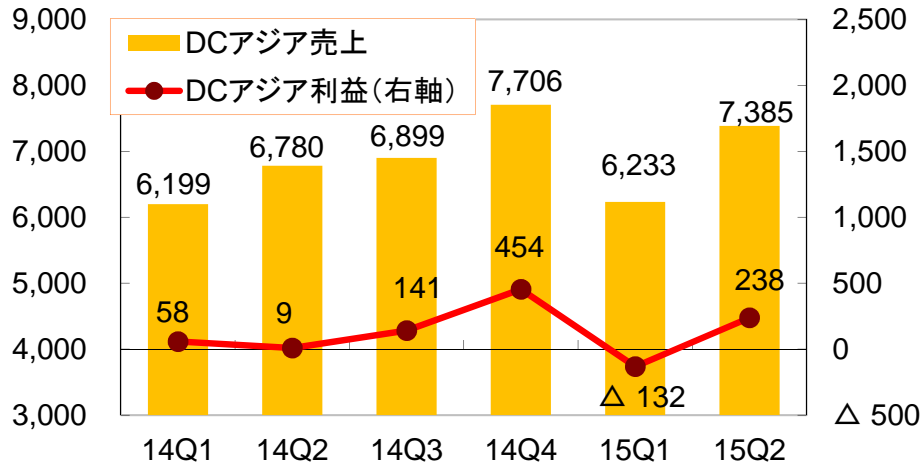


セグメント損益増減要因 (百万円)



ダイカストアジア

ダイカストアジア売上高／セグメント損益の推移 (百万円)



中国：中国経済の減速により自動車市場の伸び率が鈍化し販売が減少。しかし為替影響により売上高は増加した。収益面では製造コスト削減を図るも販売量減少影響により減益。

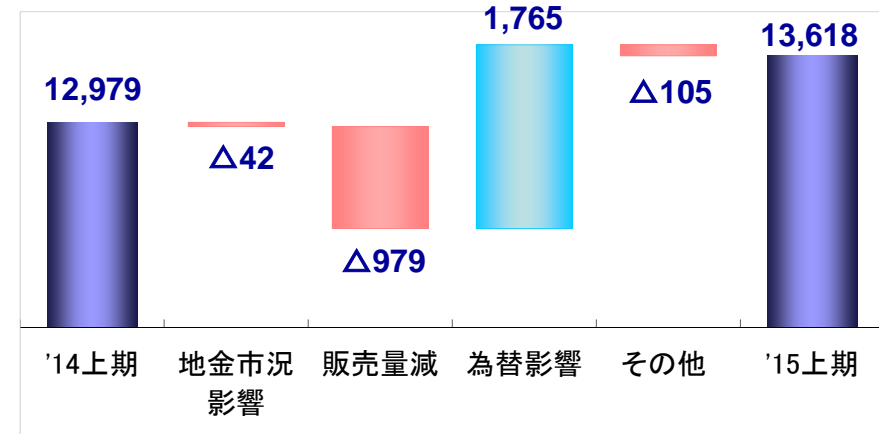
インド：新規部品の量産開始等により売上高が増加。収益面では増収及び製造コスト削減効果により、損失を縮小。

中国での受注減の影響があるものの、製造コスト低減等によりアジア全体で収益確保。

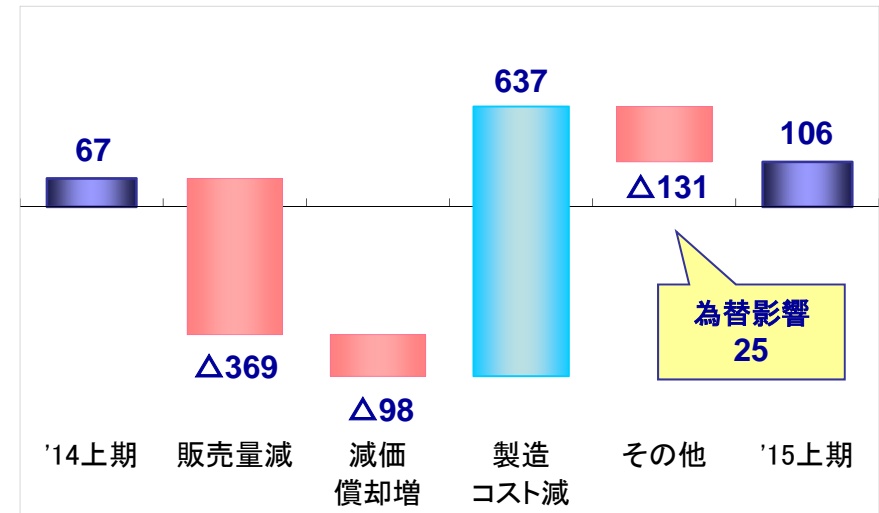
※中国1-12月
インド4-3月

平均レート(14上→15上)
人民元 16.67→19.36
インドルピー 1.72→1.90

売上高増減要因 (百万円)



セグメント損益増減要因 (百万円)



アルミニウム事業及び完成品事業

(単位：百万円)

		2015年3月期 上期	2016年3月期 上期	増減
アルミニウム 事業	売上	2,345 100%	2,590 100%	245 10.5%
	セグメント 損益	△33 △1.4%	149 5.8%	182 -
完成品事業	売上	869 100%	1,063 100%	194 22.2%
	セグメント 損益	△12 △1.4%	41 3.9%	53 -

アルミニウム事業： 受注量は前年同期とほぼ同水準で推移したものの、販売単価が上昇したことにより、売上高は10.5%増。収益面では原材料価格の下落や原価低減活動による効果により149百万円となった。

完成品事業： 主要販売先である半導体関連企業のクリーンルーム物件や通信会社のデータセンター向け物件等の受注により売上高は22.2%増。収益面では増収及び原価低減活動の効果により41百万円となった。

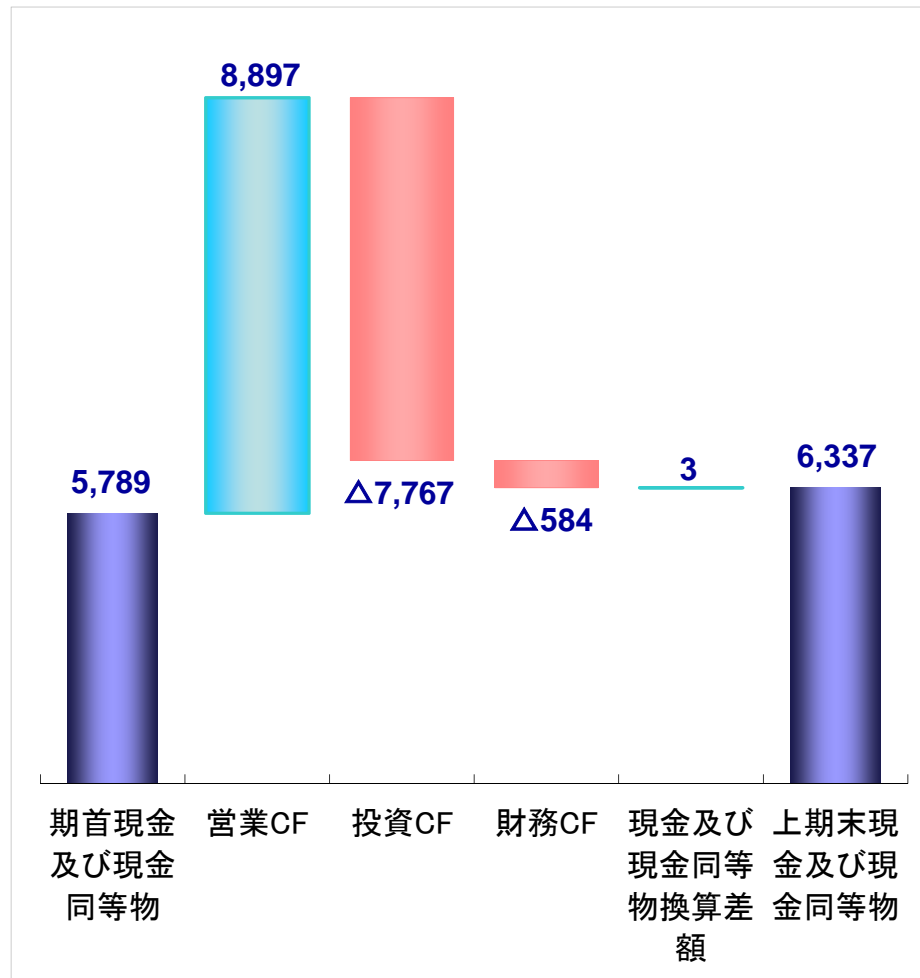
貸借対照表

(単位：百万円)

	2015年3月期	2016年3月期 第2四半期	増減
流動資産	48,464	47,435	△1,029
現預金	5,885	6,337	452
売上債権	25,679	25,539	△140
棚卸資産	12,602	11,918	△684
固定資産	100,367	101,983	1,616
有形固定資産	88,133	89,528	1,395
資産合計	148,831	149,419	588
負債合計	86,728	86,249	△479
仕入債務	20,936	19,854	△1,082
長短借入金	46,838	46,907	69
純資産合計	62,103	63,169	1,066
自己資本比率	41.7	42.2	0.5

- ◆ 資産合計の為替影響は8.5億円
- ◆ 売上減少の影響に伴う棚卸資産の減少
- ◆ 国内、海外での設備投資により有形固定資産が増加
- ◆ 受注減少の影響に伴う仕入の減少により仕入債務が減少
- ◆ 利益剰余金、為替換算調整勘定の増加等により純資産が増加

キャッシュ・フロー



(百万円)

営業CF	8,897
税金等調整前四半期純利益	1,228
減価償却費	7,520
売上債権の減少	285
たな卸資産の減少	777
仕入債務の減少	△ 1,139
未払消費税等の増加	237
法人税等の支払額	△ 542
その他	531

投資CF	△ 7,767
有形固定資産の取得	△ 7,783
有形固定資産の売却	10
その他	6

財務CF	△ 584
短期借入金の増加	331
長期借入金の減少	△ 637
配当金の支払	△ 156
その他	△ 122

- ◆ 計画よりも抑制しつつ国内外で営業CF内で設備投資を実施
- ◆ 設備投資を営業CF内で実行したことにより余剰資金を借入金の返済に充当



Ahresty

Casting Our Eyes
on the Future

今期の見通し



2016年3月期業績予想

(単位:百万円)

	2015年3月期		2016年3月期 期初計画		2016年3月期 修正計画(11/10)		対期初計画増減	
売上高	138,727	100%	146,200	100%	143,900	100%	△2,300	△1.6%
営業利益	2,521	1.8%	4,250	2.9%	4,200	2.9%	△50	△1.2%
経常利益	1,622	1.2%	3,300	2.3%	2,800	1.9%	△500	△15.2%
当期純利益	1,054	0.7%	2,000	1.4%	1,750	1.2%	△250	△12.5%
EPS	40.85		77.45		67.72		△9.73	

- ◆ 売上高: 国内の受注は当初計画より微減となるが地金市況影響により売上高は増加。北米ではメキシコの受注減が見込まれるが為替影響により売上高は増加。アジアでは中国の販売量減少の影響が続くと予想され売上高が大幅に減少。連結売上高はアジアの影響が大きく、期初計画に対して減少。
- ◆ 営業利益: 国内は経費節減等により増益が見込まれるが、北米及びアジアは、中国・メキシコの売上減少影響により減益。アルミニウム事業及び完成品事業の原価低減効果等による増益を加味しても連結営業利益は期初計画を僅かに下回る。
- ◆ 経常利益: 営業利益の減少に加え為替差損が見込まれることから期初計画を下回る。
- ◆ 当期純利益: 経常利益の減少に伴い減益。

前提為替レート(通期平均): 119.45円/米ドル、19.25円/人民元、1.90円/インドルピー

(期初の前提為替レート: 115円/米ドル、19.00円/人民元、1.90円/インドルピー)

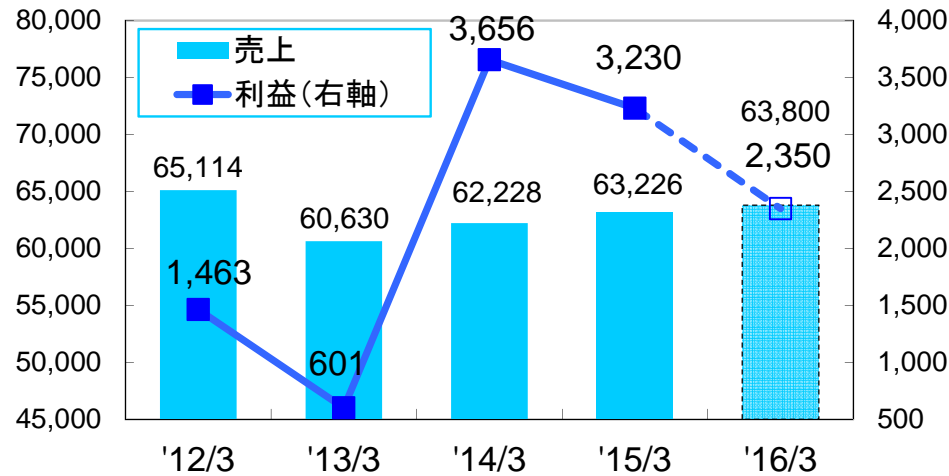
2016年3月期業績予想

(単位:百万円)

	2015年3月期 実績	2016年3月期 期初計画	2016年3月期 修正計画(11/10)	対期初計画 増減	対期初計画 増減率
売上高	138,727	146,200	143,900	△2,300	△1.6%
ダイカスト日本	63,226	62,600	63,800	1,200	1.9%
ダイカスト北米	40,654	44,500	45,300	800	1.8%
ダイカストアジア	27,584	32,100	27,600	△4,500	△14.0%
アルミニウム	5,015	5,200	4,900	△300	△5.8%
完成品	2,245	1,800	2,300	500	27.8%
営業利益	2,521	4,250	4,200	△50	△1.2%
ダイカスト日本	3,230	2,200	2,350	150	6.8%
ダイカスト北米	△1,295	1,400	1,150	△250	△17.9%
ダイカストアジア	662	500	400	△100	△20.0%
アルミニウム	5	100	230	130	130.0%
完成品	83	50	70	20	40%
消去または全社	△165	—	—	—	—
経常利益	1,622	3,300	2,800	△500	△15.2%
当期純利益	1,054	2,000	1,750	△250	△12.5%

ダイカスト日本

ダイカスト日本売上高／セグメント損益の推移 (百万円)



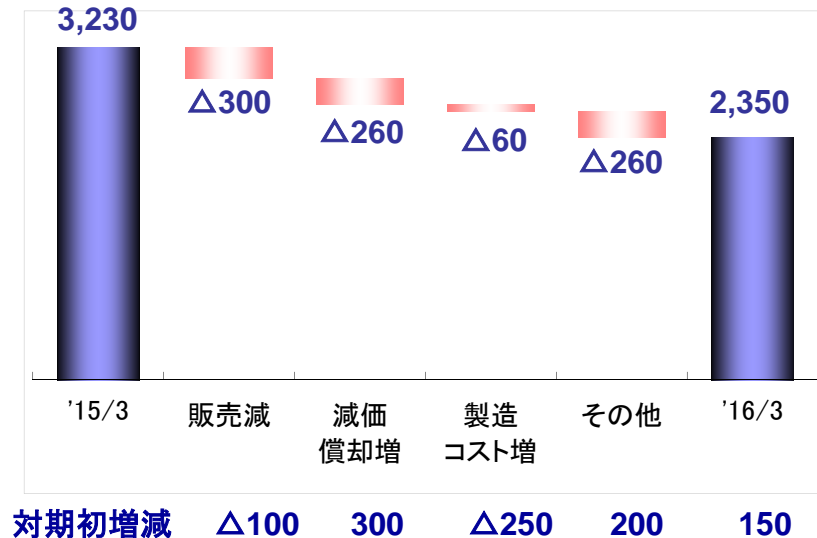
売上高: 消費増税と軽自動車税引き上げによる自動車販売の減速の影響は期初想定よりもやや悪化するも、地金市況影響が期初想定よりも増え、通期売上高は微増を予想。

利益: 販売量減少の影響や減価償却費の増加、分割回収金型の利益減少等が見込まれることから減益を予想。

売上高増減予測(11/10修正) (百万円)

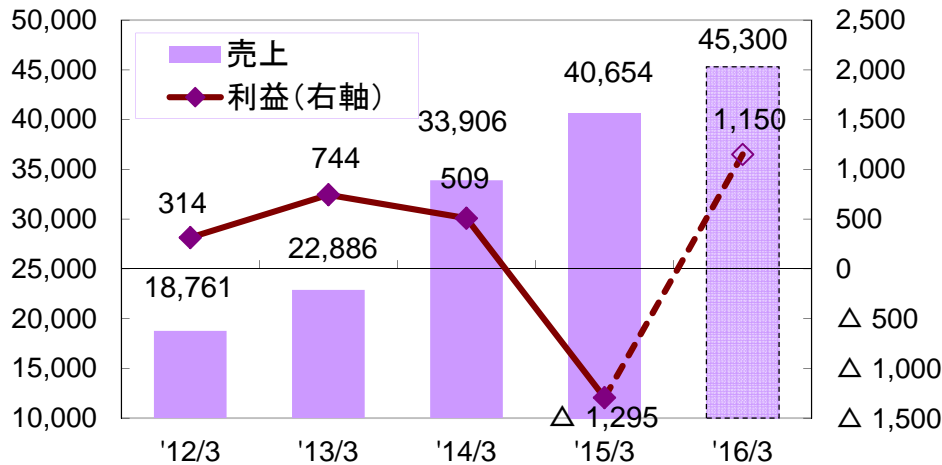


セグメント損益増減予測(11/10修正) (百万円)



ダイカスト北米

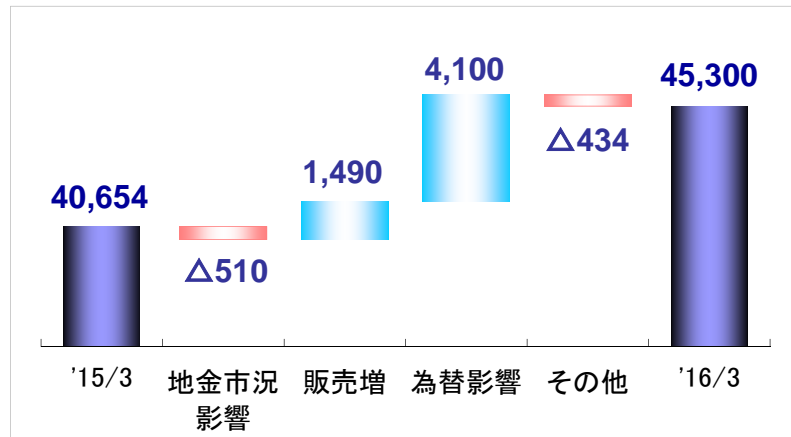
ダイカスト北米売上高/セグメント損益の推移 (百万円)



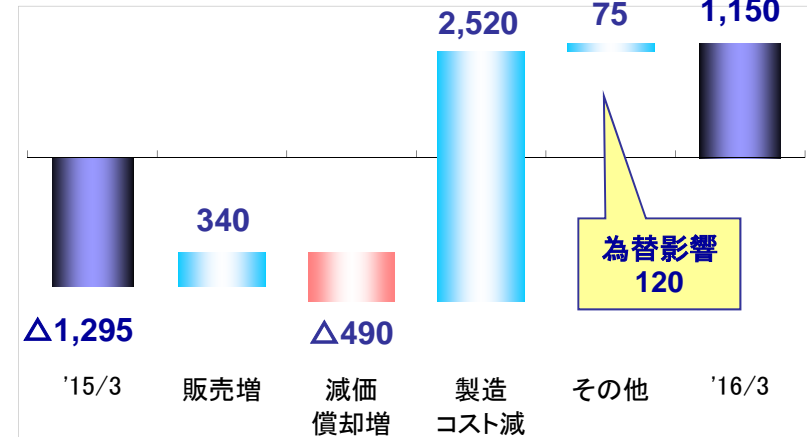
売上高: メキシコ工場で期初計画よりも受注量の減少が見込まれるが為替影響等により北米全体では売上高は増加する見込み。

利益: 減価償却費増加の影響はあるものの、アメリカ工場の生産性改善に伴う収益回復とメキシコ工場の生産性改善効果により増益の見込み。

売上高増減予測(11/10修正) (百万円)



セグメント損益増減予測(11/10修正) (百万円)

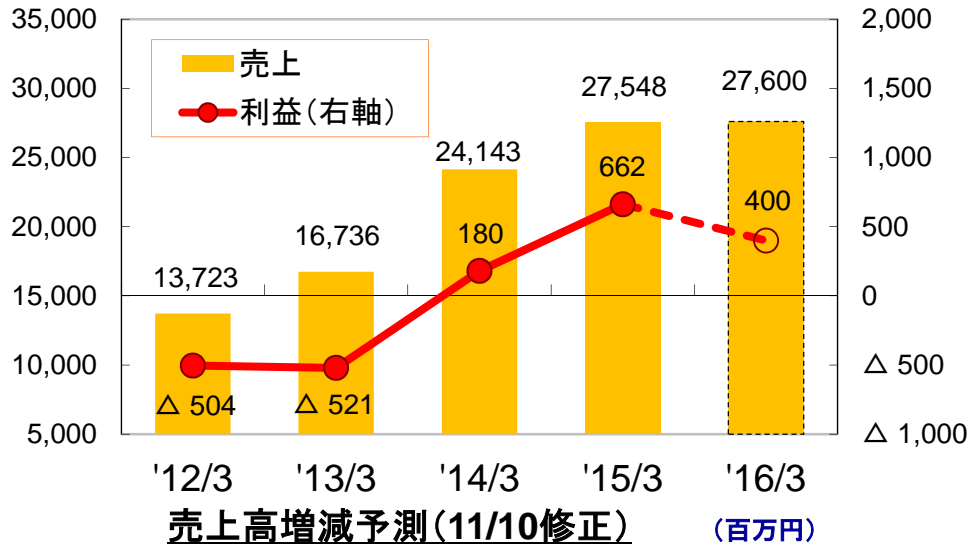


対期初増減 $\Delta 220$ 0 960 60 800

対期初増減 $\Delta 60$ $\Delta 70$ $\Delta 100$ $\Delta 20$ $\Delta 250$

ダイカストアジア

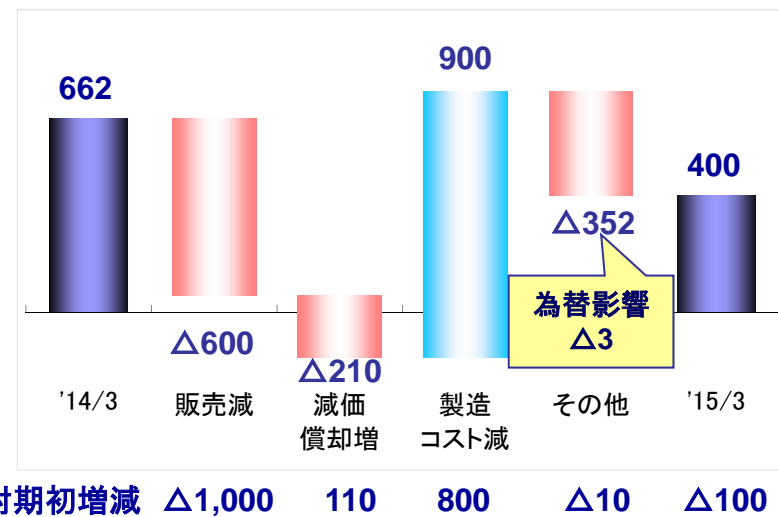
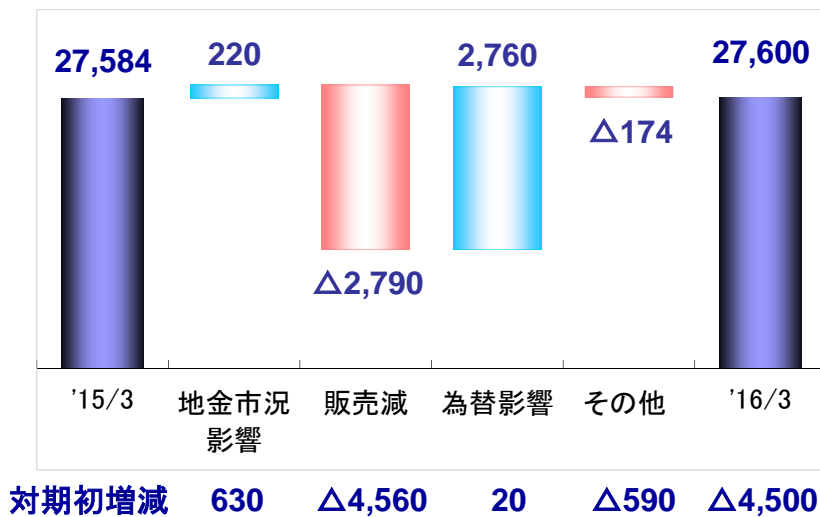
ダイカストアジア売上高／セグメント損益の推移 (百万円)



売上高: 中国の景気減速が大きく影響し受注量が減少する見込みであるが、インドの受注量が増加することと為替影響によりアジアの売上高は前期並みとなる見通し。

利益: 中国の減収影響が大きいものの中国の原価低減活動やインドの収益改善により黒字は確保する見込み。

セグメント損益増減予測(11/10修正) (百万円)



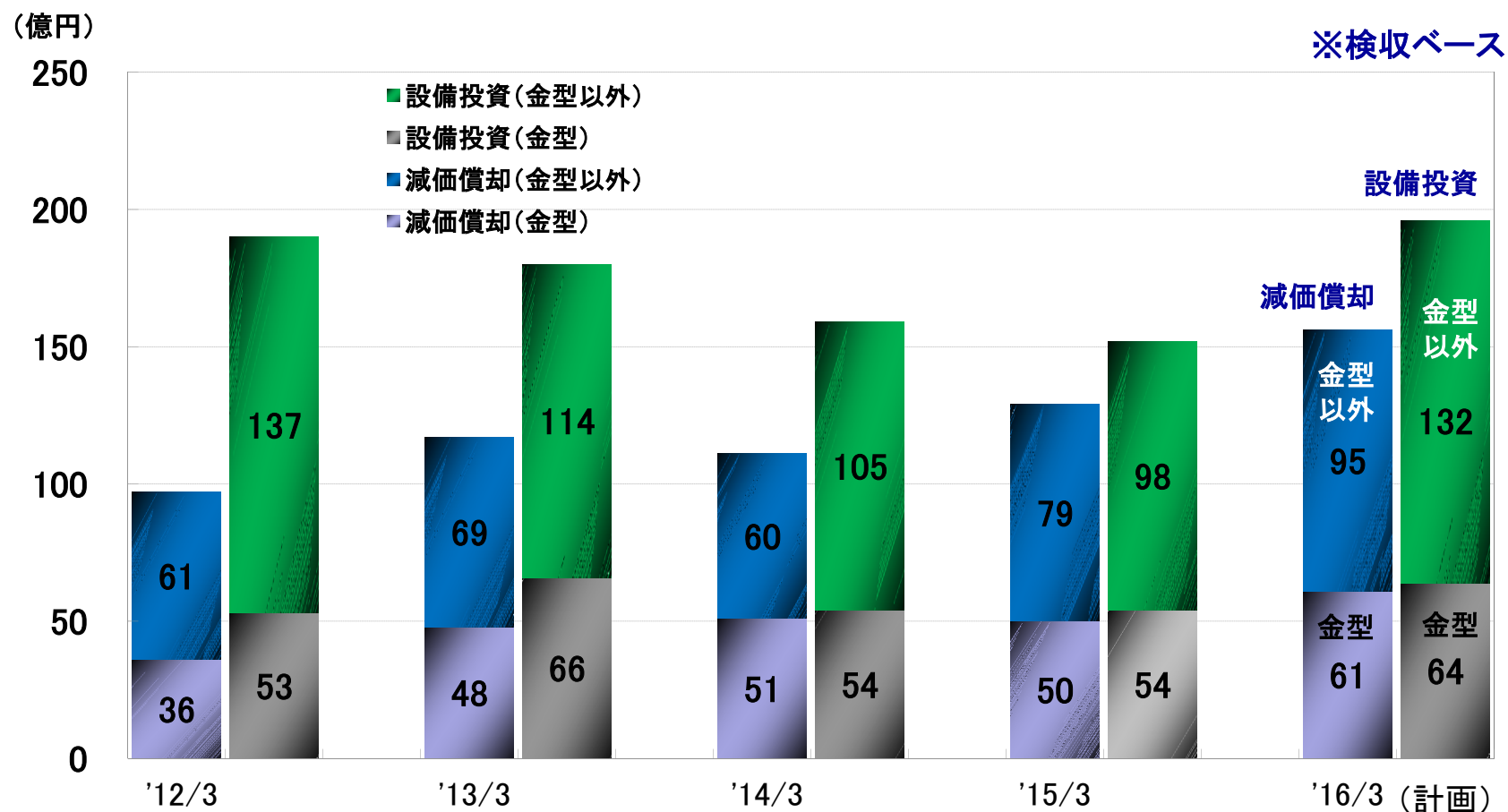
配当の状況

(単位:円)	12年3月期	13年3月期	14年3月期	15年3月期	16年3月期 予想
1株当たり配当金					
(年間)	6	3	14	12	12
中間配当	3	3	8	6	6
期末配当	3	—	6	6	6
一株当たり純損益(連結)	65.87	△ 7.76	287.10	40.85	67.72
配当性向(連結)	9.1%	—	4.9%	29.4%	17.7%

- ◆ 2015年3月期は、期初計画の業績を達成できなかったものの、期初予測どおり年間12円の配当を実施
- ◆ 2016年3月期は、年間12円の配当を予想(配当性向は当面15%程度を目安に)
- ◆ 配当性向には配慮しつつも、今後の成長を勘案した経営資源の配分を推進

設備投資・減価償却の動向

◆海外ダイカスト事業の能力拡充等の設備投資を計画



※期初計画では金型以外の設備投資172億円を計画したが、中国を中心に受注状況を勘案して40億円削減
(金型投資は期初計画比3億円増)

株式会社アーレスティ

研究開発・サービス・技術のリーダーを目指して



【本資料及び当社IRに関するお問合せ先】

株式会社アーレスティ 経営企画部 経営企画課 TEL 03-6369-8664

E-mail: ahresty_MP0_IR@ahresty.com

URL: <http://www.ahresty.co.jp>

本資料および本説明会で述べられた内容には、現時点で入手可能な情報に基づいて当社が作成した将来の見通しが含まれておりますが、様々な要因により、実際の業績はこれらの見通しと異なる場合があります。